Osaka University Knowledge Archive

Title	大阪大学歴史教育研究会 成果報告書シリーズ15　まえがき
Author(s)	桃木, 至朗
Citation	大阪大学歴史教育研究会 成果報告書シリーズ. 2018, 15, p. 1-2
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/91405
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

Osaka University

まえがき

本書は大阪大学歴史教育研究会の活動報告書の第15冊であり、同時に現在展開中の科学研究費プロジェクト「研究者・教員・市民のための新しい歴史学入門」（課題番号26244034、基盤研究（A）、平成26-29年度、代表：桃木至朗）の成果報告を兼ねる。

この科研費プロジェクトは、大阪大学における高大連携を通じた歴史教育刷新の取り組みの一環として、研究者養成だけでなく中等教育の教員養成、広く歴史学に関心を持つ市民などに必要な、歴史学とはなにをどうする学問でどんな意義があり、過去・現在にどう発展してきたのかについての大づかみな理解が提供できる、新しい歴史学の概論のモデル構築を目ざしている。それは、かつてのような「西洋哲学史（思想史）の一環としての歴史認識についての史学概論」ではなく、非西洋世界をも含み込んでいなければならない。また、急変する史料環境と「言語論的転回」を受け止めた上での史料批判などの方法論・理論、それに伝統的な政治史や経済史、文化史から環境史やジェンダー史など新しい領域までの分野ごとに、それぞれの概要と変化や課題を示すものになるはずである。

この科研費プロジェクトのメンバーは以下のとおりである（所属・職名は現在のもの）。

研究代表者	桃木至朗（大阪大学文学研究科教授）
研究分担者	秋田　茂（大阪大学文学研究科教授）
	荒川正晴（大阪大学文学研究科教授）
	飯塚一幸（大阪大学文学研究科教授）
	栗原麻子（大阪大学文学研究科教授）
	後藤敦史（京都橘大学文学部歴史学科准教授）
	小浜正子（日本大学文理学部教授）
	田口宏二朗（大阪大学文学研究科准教授）
	中村征樹（大阪大学全学教育推進機構准教授）
	堤　一昭（大阪大学文学研究科教授）
	水野祥子（下関市立大学経済学部教授）
	向　正樹（同志社大学グローバル地域文化学部准教授）
連携研究者	岡本充弘（東洋大学文学部教授）
	佐藤正幸（山梨大学名誉教授）
	成田龍一（日本女子大学人間社会学部教授）
主要研究協力者	大西信行（中央大学杉並高等学校教諭）
	置村公男（六甲中学校・高等学校教諭）
	後藤誠司（京都市立日吉ヶ丘高等学校教諭）
	毛戸祐司（京都府立田辺高等学校教諭）

小林克則（NPO法人神奈川歴史教育研究会副理事長）
笹川裕史（大阪教育大学附属天王寺中学校・高等学校天王寺校舎教諭）
庄司春子（同志社中学・高等学校教諭）
中村　薫（大阪大学・同志社大学非常勤講師）
吉嶺茂樹（北海道有朋高等学校教諭）

特任研究員　高木純一
吉川和希
西山真吾

以上のメンバーが、大阪大学歴史教育研究会に参加しているその他の大学・高校教員、ポスドク研究者や大学院生による事務局などと協力しながら、研究活動を進めている。

上記科研費プロジェクトの最終年度となる2017年度は、昨年度に引き続きプロジェクトメンバーによる分野ごとの概論構築に向けた準備を進め、一部は文学研究科・文学部の「歴史研究の理論と方法」「歴史学のフロンティア」など関連する講義で内容を紹介した。また月例研究会では、大阪大学内外の研究者による最新の研究成果・研究動向の紹介や、他の歴史学入門書の執筆者との交流を実施した。「福井憲彦『歴史学入門』を書き換える」をテーマとした大阪大学大学院生によるグループ報告も、本プロジェクトの目的に照らして有益だった。その他、中教審・文科省が進める学習指導要領改定や入試改革に関連した授業改革・用語精選などの検討をおこなって、プロジェクトの出発点となった高大接続の今後を展望した。月例会以外の場でも、2015年7月に発足した高大連携歴史教育研究会や、堺市博物館をはじめとする外部組織と連携した活動を活発に展開した。

本書には、こうした本年度の成果の一部として、前述した大学院生による研究報告を収録している。なお、研究活動に関する詳細は、巻末の活動記録を参照されたい。

最後に、2017年度の活動にあたり参加・協力して下さった研究者、院生・学生、高校教員、事務職員ほかすべての皆さんに、あつくお礼を申し上げたい。

2018年3月　桃木至朗